



韓国挺身隊問題対策協議会(以下挺対協)は日本軍「慰安婦」被害者たちの人権と名誉を回復し、韓日間の歪曲された歴史を正すため1990年11月16日発足しました。

この間、日本政府に対し以下の7大要求をしています。

- 01 戦争犯罪の認定
- 02 真相究明
- 03 公式謝罪
- 04 法的賠償
- 05 責任者処罰
- 06 歴史教科書への記録
- 07 追悼碑と資料館の建設

この間、挺対協は生存者支援、アジア被害国連帯結成、南北連帯、国連とILOの謝罪と賠償勧告、2000年女性国際戦犯法廷、ソウル駐韓日本大使館前での日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜デモなどを通じて、日本軍「慰安婦」被害者ハルモニに人権と名誉を回復しようとし生懸命活動してきました。このような活動を通じて人類の歴史に戦争による女性の人権蹂躪が起らないようにしたいと思っています。



寄付金の振込先(郵便振替)

日本国内に振替口座を作りました。ご利用ください。

口座番号：00130-1-296709

口座名：「韓国挺身隊問題対策協議会日本後援会」係



日本軍「慰安婦」被害者の尊厳回復のための

戦争と女性の人権博物館

“忘れはしません

彼女たちが戦争で被った

犠牲と歴史の教訓を!”

韓国挺身隊問題対策協議会 戦争と女性の人権博物館建設委員会

SEOUL市西大門区忠正路2街35番地基督教社会問題研究院3F KOREA
 Homepage : <http://www.womenandwar.net> (挺対協)
<http://www.whrmuseum.com> (博物館)
 E-mail : www@womenandwar.net



「私たちは
そんなに簡単には
死なないよ。」

日本がこんなに強くしたんだ。
全世界の人たちがこの問題を
知ってくれればいいのだけけれど。」

— 故妻徳景ハルモニの言葉より

「尊厳の回復を求めて生きた女性たちの思いと道のりを語り伝えること。加害の歴史を抹消しようとする勢力が台頭する今こそ、私たちの連帯の力を示そうではありませんか。」

(高橋哲哉 東京大学教授)

「沈黙を破ったハルモニたちの勇気を歴史と記憶に刻んでいくことは、サバイバーの勇気に応える大きな取り組みです。女性・人権博物館を、多くの人々の手で実現しましょう。」

(西野留美子 パウネットジャパン 共同代表)

「自らの体験を吐露し、これを社会化し、被害回復の道を歩んできたハルモニたちの営みを、私たちは目撃してきました。今、生きた証を残したいと訴えるハルモニたちの思いに、なんと少しでも応えなければならぬと思います。」

(梁澄子 在日の慰安婦裁判を支える会)

「名誉の回復と人権を求めるハルモニたちの足跡を記録・展示し、広く伝えることは、再発防止のためにも大きな意義があると思います。東アジアで相互に深く信頼しあえる関係を築くためにも、すばらしい博物館ができるよう、協力していきましよう。」

(吉見義明 中央大学教授)



「私の青春を返して」

故金学順ハルモニ

私の人生は花のような16歳で終わりました。あの時のことは言葉にできません。軍人たちがやたらとびかかってくる時には唇をかみ締め、逃げては引きずり戻され、思い出すだけでもぞっとします。いつかはこの事実が明らかにされ、思い出すのをいつも抱いてきました。今もこうしてびんぴんと生きているのは胸に染み付いた恨がはらせないからです。私の青春を返して下さい。(1997年12月16日 逝去)



「この歴史を知っているから 後輩たちがいるから」

李啓濤ハルモニ

私たちは絶対に死にません。日本が未だ何の謝罪もせず反省もしないから、あいつらがうとましくてた目を閉じているだけです。日本政府は私たちが死ぬのだけを待っているのだろうけれど、私たちの後に続く後輩たちが沢山いるから、謝罪して賠償するまでこの運動は終わりません。



「私たちのように 生きてはならない」

吉元五ハルモニ

私たちは本当に辛い時代に生まれ辛い経験をしました。この世に生まれて子供を残す事もできず、何も残さないまま人生を終えるのではないかと思うと、何だか本当にうら寂しく自分の人生が可哀想でした。挺対協で記念館をつくるという話を聞いてどれほどうれしかったことか。私が死んでも、私が犠牲にされたことを忘れないと言ってくれて、あの苦労の中でも今まで生きてきた甲斐がありました。どうか記念館に来て歴史を見て学んで、私たちのように騙されず、私たちのように受難を受けることなく、あんな辛い歳月を送らないことを願っています。

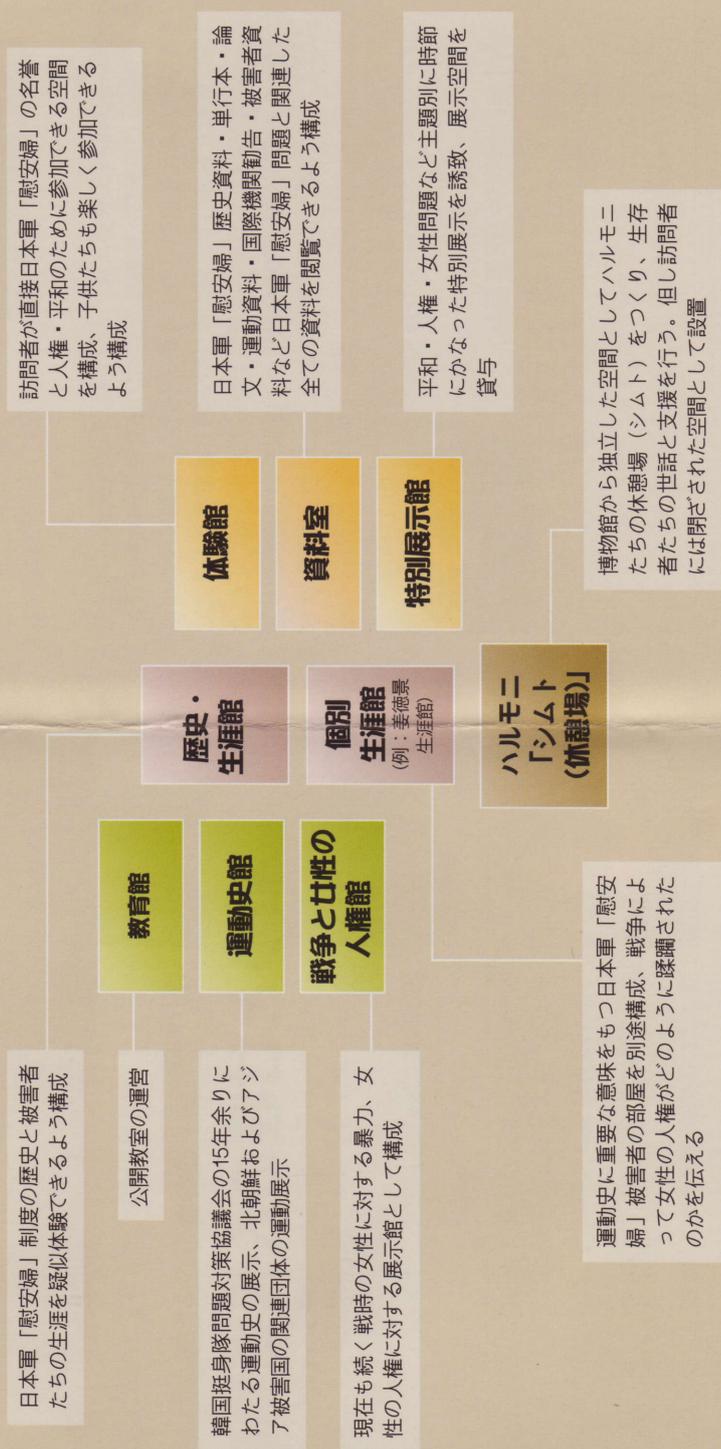


{ 戦争と女性の人権博物館 }

構成計画

■ 日本軍性奴隷被害者たちの生涯と、問題解決のための女性たちの運動史、次世代のための教育など、一つの空間の中で過去と現在が出会い、希望あふれる未来を夢見、作っていただけるような場にします。

■ 閉ざされた空間で訪れる人々を待つ剥製化された博物館ではなく、開かれた空間、生きている現場教育の場となるよう構成します。



{ 戦争と女性の人権博物館 }

建設の目的



日本軍「慰安婦」被害者の尊厳回復のために 戦争と女性の人権博物館

- 日本軍「慰安婦」犯罪の本質を告発
- 日本政府の法的責任履行を追及
- 日本軍「慰安婦」犠牲者の追慕
- 日本軍「慰安婦」生存者の支援

日本軍「慰安婦」被害者の名誉と人権回復

- 国内外の学生・市民への現場教育
- 現場性・実践性を兼ね備えた教育プログラムの開発・施行
- 平和・人権教育の実施

次世代のための人権教育・平和教育・歴史教育

- 日本軍「慰安婦」制度の徹底調査研究
- 類似犯罪の調査研究
- 国内外で企画展示
- 挺身隊問題対策協議会運動の継承

日本軍「慰安婦」のような類似犯罪の再発防止

- 日本軍「慰安婦」問題解決運動の事例提供
- 戦争と女性人権関連資料の収集・研究
- 国際人権・平和・女性団体との交流・連帯

戦時の女性に対する人権蹂躞犯罪解決運動と連帯

戦争と女性の人権博物館

建設の背景と主旨

1990年11月16日に韓国挺身隊問題対策協議会が発足し、日本軍「慰安婦」問題を解決するための運動をはじめ15年がたちました。

この間、国連やILOなどの国際機関は日本軍「慰安婦」制度を、反人道的な犯罪であり戦争犯罪であると規定して、日本政府に法的責任を追及する勧告を出しました。

しかし、日本政府は未だに罪を認めず、法的責任も回避しており、被害者たちは一人二人と解決を見届けることなく亡くなっているのが現状です。

運動がはじまった時、被害者たちの勇気ある証言によって、私たちの社会は過去の歴史を振り返ることができました。被害者たちは、人権と平和のための生きた教科書となってください。

そして今、私たちは彼女たちの勇気ある告白を、希望に変えていかなければなりません。生きた歴史である彼女たちが私たちのそばから離れていく前に、「戦争と女性の人権博物館—日本軍「慰安婦」被害者の尊厳回復のために」を建設しようと思えます。

この博物館を通じて日本軍「慰安婦」ハルモニたちの名誉と人権を回復させ、二度と人類の歴史にこのような犯罪が再発しないように教育し、人権と平和を愛する人々を増やしていきたいと思えます。今もお世界のあちこちで続けられている戦争と、その中で暴力を受けている女性たちの問題を明らかにし、連帯することによって女性たちに希望を与えたいと思っています。

博物館建設のため市民の力を集めてください。